

大間々砂防通信

OMAMA-SABO TIMES

国土交通省 関東地方整備局 渡良瀬川河川事務所 大間々砂防出張所 編集・発行
〒376-0101 群馬県みどり市大間々町大間々1204 Tel 0277-72-1664 Fax 0277-72-1669
http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/

平成26年(2014)

6

 月

【創刊号】

直射日光を避けていれば
熱中症にはかからない？
それは間違いです！
たとえ日陰でも、温度と湿度
が高ければ危険信号。
みなさん、ご注意ください。



リアルタイムの雨量と
水位を知りたい時は、
コチラ!!!
<http://i.river.go.jp/>

川の防災情報

砂防施設の安全利用点検を実施



写真-1 安全利用点検を行う大間々砂防出張所・須藤所長＝4月23日午前、神梅護岸(みどり市大間々町上神梅)、出張所職員撮影

GW(ゴールデンウィーク)を迎えるにあたり、大間々砂防出張所では、行楽客の利用が想定される管内の砂防施設24基を対象にした安全利用点検を実施しました。

点検は4月17日、21日、23日の3日間にかけて行われ、以前、「ナニコレ珍百景」というテレビ番組(テレビ朝日系)で毎週水曜日の19:00-19:56に放送されているバラエティ番組です。正式名称は「珍衝撃映像バラエティ ナニコレ珍百景」です)でも取り上げられたことのある「小中川砂防堰堤」を始めとした砂

防施設について、「危険な箇所は無い」「注意喚起が必要な箇所は無い」といった点に着目し、出来る限り一般の方々の目線に立って点検を行いました。(写真-1)

点検の結果、対象24施設のうち、20施設で何らかの対応が必要と判断しました。

そのうち、大間々砂防出張所では、危険と思われる箇所に、職員の自作による立入禁止や注意喚起を促す看板(図-1)や、黄と黒のいわゆるトラ模様様のロープや注意喚起テープなどを設置し、行楽客が安全に砂防施設周りの河川

近寄るな危険!!

警備物にフェンスが十分でないところがあり、落ちて転落する恐れがありますので、フェンスには近寄らないようお願いいたします。

渡良瀬川河川事務所 大間々砂防出張所
0277-72-1664

図-1 職員自作の注意喚起看板

を利用できるように応急の措置をとりました。これら応急復旧された箇所については、今後、工事を発注し、より安全かつ丈夫なものに近く置き換える予定です。

新任の挨拶

大間々砂防出張所

所長 須藤 利夫

4月より着任しております須藤です、よろしくお願いたします。

渡良瀬川のすばらしい環境の中で仕事が出来て大変光栄です。

大間々砂防出張所の管轄する区域は、みどり市と桐生市です。少しでも地元のために、何かありましたら、大間々砂防出張所まで御相談ください。

地元から愛される神梅床固群

更なる延伸を望む声も

安全利用点検の最中、偶然、地元住民の方から話を聞くことが出来ました。場所は、みどり市大間々町塩原地先の渡良瀬川左岸で、平成17年度頃までの数年間、大間々砂防出張所で床固群等の砂防施設と一緒に整備した遊歩道の上のことです。

その方の話によれば、地元ではこの遊歩道が大いに喜ばれており、対岸及び上下流に伸びる未整備箇所についても、引き続き同様な整備をして欲しいという期待が大きいそうです。

今後、渡良瀬川の貴重な自然と共に、みんなでの憩いの場所を守って行ければ、出張所職員一同、決意を新たにしました。



写真-2 地元住民と意見交換を行う大間々砂防出張所・職員＝4月23日午前、神梅床固群(みどり市大間々町塩原)、須藤出張所長撮影

大久保沢砂防堰堤(本堰堤)が完成

土石流の危険から災害弱者を守る砂防施設



写真-3 大久保沢砂防堰堤=5月下旬、桐生市川内町、沼田土建株式会社森田光氏撮影

【契約概要】工事名…H25大久保沢砂防堰堤工事、請負者…沼田土建株式会社、請負額(最終・税込)…9千6百1万4千4百円、工期…平成25年7月30日〜平成26年4月24日。
【施設概要】施設名…大久保沢砂防堰堤、堤高…10

m、幅56m、計画堆砂量…約7740m³、場所…桐生市川内町地先、渡良瀬川支川山田川支川大久保沢。
* * * * *
平成26年5月7日、完成検査を終え、無事、大久保沢砂防堰堤工事が竣工を向かえました。

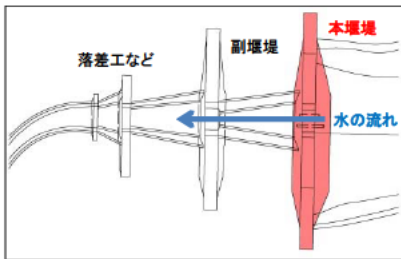


図-2 全体計画イメージ (細部の構造等は変更の可能性があります)

昨年7月に沼田土建株式会社と契約になった「H25大久保沢砂防堰堤工事」は、桐生市川内町にある介護老人施設「ナーシングケア川内の杜」から少し山に入った沢に、高さ約10mほどの砂防堰堤を建設する工事です。この沢は、土石流危険渓流に位置づけられており、大雨や台風など、大量の降水に見舞われた場合、土石流発生の恐れがあるため、その土石流などから介護老人施設や一般家屋を守ることを目的に、この砂防堰堤が建設されました。今回完成したのは図-2に示す全体計画のうち「本堰堤」と呼ばれる部分です。今後、下流側にある「副堰堤」等の施工が予定されています。



写真-5 豪雪の中、工事を行う作業員=2月14日、沼田土建株式会社森田光氏撮影

豪雪による遅延を乗り越え

請負者である沼田土建株式会社森田光氏現場代理人に、この工事で最も苦労したところは？と質問をしたところ、今年2月に関東全域を覆った「豪雪」との答えが返ってきました。工事現場での積雪は当然のことながら、今回は都市機能全体が麻痺してしまったことが、その最大の理由です。普段はあまり雪が降らない桐生市においては、行政や住民も含めた町全体が雪

に対する耐性が低く、特に道路の除雪に非常に時間を要しました。その結果、「工事現場に行くにも道路が通れない」「掘削重機などは、まず道路除雪に駆り出されるため、現場に配備できない」等々の問題が生じました。しかし、それらの困難をもとめせず、無事故で、この砂防堰堤を完成させた森田氏には、工事監督をする立場だった我々大間々砂防出張所職員一同、心から感謝の意を送りたいと思います。

洪水対応演習の実施

大間々砂防出張所では、渡良瀬川河川事務所や関東地方整備局といった国土交通省の上部機関と合同で、5月19日、洪水対応演習を行いました。この演習は、毎年、出水期(6月〜10月)に入る前に行っているもので、出水時における洪水予測、水防関係機関等への水防警報・洪水予報等の情報伝達、河川工事の現場関係者への情報伝達、被害軽減措置としての対策工法の検討など、実際の出水を想定した実践的な演習を行うことで、防災体制に万全を期すことが目的です。今回の演習では、桐生市川内町にある山田川の支川、堂場沢で土石流が発生したという想定で演習を実施しました。演習上では、災害協定を結んでいる各社へ連絡を取り、緊急的に重機や資材等を手配し、速やかに不安定な土砂を撤去する、といった流れの伝達演習を行いました。演習を終え、軽微ながら修正や改良を施すべき点が見つかり、大間々砂防出張所として大変有意義な訓練を実施することが出来ました。今後、有事の際には、この訓練の成果を生かし、迅速な災害対応に努めたいと考えています。